

4. 自己評価

評価項目		評価指標	取組状況・成果	評定	次年度の方策	
大	中					
〔1〕 学力向上	① 学力向上のための組織的な校内研修等の取組	<ul style="list-style-type: none"> □ 教員の「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」(1～4段階:4点満点)の全項目平均:3.5点以上 □ 高知県学力調査(12月:4・5年)及び標準学力調査(1月:1・2・3・6年)の平均正答率全国比+5P超 	<ul style="list-style-type: none"> □ 全国学力調査(全国比):6年 国語+14.2 算数+13.8 □ 高知県学力調査(全国比):4年 国語:+9.3 算数:+12.5 5年 国語:+8.3 算数:+10.5 理科:+5.9 □ 「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」全項目平均:3.7点/4点満点 □ 校内研修の内容が効果的だと回答:3.8点/4点満点 □ 授業研究や各種研修の成果を日々の授業改善に生かしていると回答:3.8点/4点満点 ◎ 「高知の授業の未来を創る」協働校事業、校内研究等、計画的で効率的な研修内容の企画推進に努めた。 ◆ 働き方改革との両立を鑑み、短い時間で研修の質を上げることのできる研修内容と適切な時間設定、自己・相互研鑽による高い資質・能力向上意欲とプロ意識が必須。 	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上を第一義に、国語・算数を中心とする校内授業研究と、中村中学校と連携協働して、3年間で6教科(国語、社会、算数、理科、体育、外国語)の授業研究を展開した「高知の授業の未来を創る」協働校事業の取組体制と成果を可能な形で継承し、授業改善を果たすべく、意図的・計画的・効率的で繋がりのある校内研修の企画・推進に努め、その充実を図る。 	
	② 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校評価アンケートで「授業がよくわかる」と強い肯定的評価をする児童70%以上 □ 「授業改革アンケート」「ユニバーサルデザインによる授業づくりアンケート」の全項目平均3.3以上(4点満点) □ 授業研究における授業評価(教員相互)総合平均3.2以上(4点満点) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 学校評価アンケート「授業がよくわかる」の強い肯定評価:63%、肯定的評価:97% □ 「授業改革アンケート」・「ユニバーサルデザインによる授業づくりアンケート」・「研究授業授業評価(教員相互)」の全項目平均:3.1・3.5・3.3/4点満点 ◎ 授業研究、見て見て授業、人事評価授業観察、板書交流、ノート交流等により、日常的に一定水準の授業ができています。 ◎ 各種授業研究や校内研修を通して、研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり-各教科等の見方・考え方を働かせて-」を意識した授業が具現化されつつある。 ▼ 身に付けたい資質・能力と学習活動がずれている授業、子どもの思考の流れを踏まえない教師主導の授業がある。 ▼ ねらいに迫り深める発問と応答、対話的な学習ができる集団づくりを究めたい。また、日常から上記研究主題が実現できる児童の習得学力と活用学力の定着・向上に努めたい。 	3.1	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指定事業(四万十市1校1校教育研究事業、国・県等の研究指定事業)により授業研究を充実する。 ○ 冊子「授業改革ハンドブック」と「国語科授業づくりのポイント」の確認改善と「算数科授業づくりのポイント」を新規作成し、指導と評価を揃えたい。 ○ 校内授業研究に加えて、板書交流やノート交流、見て見て授業は、日常的な授業改善・授業づくりに効果があるので、より自主的・主体的かつ効率的に見通しのある取り組み方で継続する。 ○ 授業改革の定期的な自己点検、全体点検を継続して授業改善の機運を高める。 ○ GIGAスクール構想の具現化と教育のDX化の実現を目指し、ICTを活用した授業・教育活動づくりを積極的に進める。
	③ 予習・復習の質と量を高める取組	<ul style="list-style-type: none"> □ 家庭学習目標時間が達成できる児童95%以上 □ 自主学習ノートA評価65%以上 □ 時々予習する児童90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □ 家庭学習目標時間が達成できる児童:75% □ 時々予習する児童(1学期・2学期):91%・93% □ 自主学習ノートのA評価各学年平均:64% ◎ 全学年全学級で自主学習ノートの展示・紹介、学級・学年間ノート交流等を通してノートの量・質が向上している。特に、高学年は質・量の向上が顕著にみられる児童が多く、安定的に良質化している。 ▼ 昨年度よりさらに改善傾向にあるが、家庭学習の徹底に苦慮する学年・学級がある。 	3.2		<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度当初に、家庭学習について教員の共通理解のもと、学校ぐるみで児童、家庭に徹底する。 ○ 家庭学習のチェックの状況を適宜、校内研修で確認する。 ○ これまでの流れを大切に、自主学習ノートの交流を教員、児童が学期に1～2回実施して、予習のあり方、自主学習のあり方を情報交換し合う。
	④ 基礎学力定着のための取組	<ul style="list-style-type: none"> □ 国語・算数の市販単元テスト平均85点以上 □ 国語・算数の市販単元テスト平均60点未満10%未満 	<ul style="list-style-type: none"> □ 国語・算数の市販単元テスト平均点(1学期:2学期):国語(90点:89点) 算数(88点:89点) □ 国語・算数の市販単元テスト平均60点未満(1学期:2学期):国語(1.1%:1.5%) 算数(2.3%:2.3%) ◎ 授業、光タイム(帯タイム)、中小タイム(学校裁量時間)、家庭学習、放課後個別・補充学習等の連動・サイクル化を中心に、目標意識と取組意識は全体共有できている。 ▼ 年々改善充実しているが、上述の共通理解された取組の効率化と質的充実を学校組織全体で進め、各種テスト・学力調査C評価=60点未満の児童の減少を果たしていく。 	3.4		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力低位層の児童には、学級担任を核に、複数指導体制で個別的な指導・支援、帯タイム・放課後の個別・補充学習等に努める。4年以上の児童には、「放課後学びの教室」も勧める。 ○ 問題・課題処理のスピードを上げるため、問題集や過去問題等を効果的に活用する。特に、典型・良質教材を学校ぐるみで選定活用する。また、個別最適な学びを求めてタブレットを活用した習熟・発展学習を展開する。
〔2〕 生徒指導	① いじめの防止等のための取組	<ul style="list-style-type: none"> □ アンケートで「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」と回答する児童100% □ 学校生活アンケートで「嫌なことをされた経験がある」と回答する児童30%未満 	<ul style="list-style-type: none"> □ いじめ件数0件 □ 「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」と回答する児童:99% □ 高知家いじめ予防プログラムを活用した校内研修実施:100% ◎ 報告・連絡・相談の徹底と管理職・SCも関与するチーム対応、問題の初期対応・早期解決の徹底に努めた。 ◎ いいところみつつけなど、自尊感情を高め、相互評価と共感的な人間関係を育成する取組が広がった。 ▼ 教員の観ている場面での問題はほぼないが、教員がいない場面(休み時間、放課後、下校後、休日、放課後子ども教室等)で問題やトラブルが起きる。 	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 冊子「いじめ予防等プログラム」を活用した授業を実施する。 ○ 教員の指導のみならず、児童会役員が、適宜、児童会活動や児童朝会等を介して「いじめ問題」への取り組みを展開する。 ○ 「報道相」の徹底と教職員間コミュニケーションの促進。管理職も関与して、早期発見・早期解決のチーム力の向上を図ると共に、児童観察、面談、アンケート等による児童理解を高める。保護者や児童が相談しやすい体制づくりに努める。 ○ 問題が起こる場面を児童に意識化させ、どんな場面でもいじめや暴力暴言、けんかやトラブルがないよう適宜適切な指導を入れる。
	② 不登校への総合的な対応のための取組	<ul style="list-style-type: none"> □ 生徒指導校内支援会(SC活用)年間10回(月1回程度)開催 □ QUアンケートで不満足・要支援群5%未満 □ 学校評価アンケートで「学校生活が楽しい」と肯定的評価する児童90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □ QUによる学校生活不満足群・要支援群:8.0% □ 学校評価アンケート(児童)「学校生活が楽しい」の肯定的評価:95.4% ◎ ウイズコロナからアフターコロナへ、可能な限り縦割り班活動やファミリー朝会、全校レクリエーション等を実施した。 ◎ 生徒指導校内支援委員会(SC・SSW含)7回開催(2月末現在) ◎ 不登校(傾向含)児童に対しては、情報の共有と管理職・SC・SSWも関与するチーム対応・早期対応に努めると共に、児童や保護者の実態や要望に基づく柔軟な対応策の実行に努めた。 ▼ 不登校が課題解決した事案が生じた一方で、ふとしたきっかけや時期から不登校傾向になる児童が生じた。 	3.1		<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝会等を活用して、学級、ファミリー班で意図的・計画的にエンカウンター・レクリエーション活動等を実施する。 ○ 学級活動で良好な人間関係を育てる活動を効果的に導入すると共に、コミュニケーションスキルを身に付けさせる。 ○ 不登校問題に関しては、SCの有効な活用を行い、関係機関とも連携を図りながら、チーム意識をもって、未然防止、初期対応、自立支援を踏まえて、適時適切な対応に努める。

〔3〕 学校・家庭・地域の連携・協働	①保幼小、小中の円滑な接続の推進	<p>□中村中学校区の「学習規律」に関するアンケート全項目(1~4段階:4点満点)の平均3.5点以上</p> <p>□教員の「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」(1~4段階:4点満点)で保幼小、小中の円滑な接続の項目:平均3.5点以上</p>	<p>□教員の「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」の保幼小、小中の円滑な接続の推進:3.6点/4点満点</p> <p>◎スタートカリキュラムにより、両学級ともスムーズな学習・生活につながることができた。</p> <p>◎連絡会で保育所等と「つきたい10の力」を共有し、共通理解を図ることができた。</p> <p>◎保育所・幼稚園・こども園との定期的な2回の情報交流を効果的に実施し、円滑な入学児童の受入れと学校生活への適応、保護者対応に繋がった。</p> <p>◎夏季休業中に、低学年部会教員が愛育園とひかりこども園を訪問し、保育参観と情報交換ができた。また、ひかりこども園と津波避難訓練を実施する等、具体的な事業が展開できた。</p> <p>□中村中学校区の学習規律に関するアンケート全8項目肯定的評価(教師・児童):100%・93%</p> <p>◎中村中学校区の教育を考える会及び各部会への積極的な関与に加えて、協働校事業で創出した年間計3回の中村中学校との教科部会及び教材研究会・授業研究会・相互の授業観察等の場や機会を介して、連携が深まった。</p>	3.9	<p>○「つきたい10の力」及び「スタートカリキュラム」に基づいた教育課程の実施と改善充実。</p> <p>○子育て支援課が動き出した事業にのって、保育所・幼稚園・こども園等との児童・職員・管理職交流を意図的計画的に進める。</p> <p>○児童(1年・5年)が保育所・こども園を訪問して交流を深める。</p> <p>○中村中学校区の学習規律の徹底。</p> <p>○中村中学校との連携の継承(可能なら全教職員研修の年間3回程度の教科部会の実施と充実、研究会企画会・管理職会等における連携)</p> <p>○来年度の研究指定事業及び両校授業研究、教科等授業の相互観察の機会を活用・創出して、互いの授業研究力を交流し合う。</p>	
	②ふるさと教育の推進	<p>□生活科や総合的な学習の時間の年間指導計画の中でふるさと教育に関わる内容の確実な実践:計画内容実施率90%以上</p> <p>□道徳性に関するアンケート(3年以上児童)の「ふるさとを愛している」:肯定的評価90%以上</p>	<p>□生活科や総合的な学習におけるふるさと教育に関わる内容の年間指導計画内容実施率(6学年平均):96.6%</p> <p>◎生活科や総合的な学習、社会科学や理科等の時間に、山の学習や地域学校協働本部事業等も活用して、地域を学習の場とし、地域や関係機関の方をゲストティーチャーとする授業(体験学習を含む)を計画に沿って実施できた。</p> <p>□道徳性に関するアンケートの「ふるさとを愛している」肯定的評価(1学期・2学期):98.8%・97.7%</p> <p>◎児童朝会や各種行事等のあいさつなどの中で、ふるさと(四万十市・高知県)を知り、ふるさとを愛する心情を育てる講話等に努めた。</p>	3.3	<p>○生活科・総合的な学習において、学校としてのテーマや内容について系統性とストーリー性をもたせた計画への改善を図ると共に、探究的な学習のサイクルが生まれる単元・授業づくり、子ども主体の学習へと質的転換を図る。</p> <p>○効果的で良質なふるさと学習が展開できる学習の場とゲストティーチャーのさらなる開拓と再構築・再構成を進める。</p> <p>○各教科等や児童朝会・各種行事等の中で、引き続き、郷土を知り、郷土愛を育てる内容を意図的計画的かつ効果的に取り上げる。</p>	
	③みんなであいさつ運動	<p>□児童会、PTA学級委員、地域民生委員・玉姫の会等によるあいさつ運動の実施</p> <p>□学校評価アンケートであいさつに関して肯定的評価が90%以上(児童・保護者・地域)</p>	<p>□学校評価アンケートによる「あいさつ」に関わる肯定的評価:保護者85.0% 児童95.4% 地域91.0%。</p> <p>◎学校内では児童会での取組(あいさつレベルの提示)や教職員の指導と評価で朝や帰りのあいさつが一定活性化。</p> <p>◎新型コロナの感染分類5類移行に伴い、地域にも交通安全街頭指導とあいさつ子ども見守り活動をお願いし、復活できた。</p> <p>◎四万十市社会福祉協議会との協働事業、あいさつ活動と地域美化活動を広げる月1回の「おはボラ」活動が定着(毎月20日の県民交通安全の日を基準)した。</p> <p>▼学校内では、各学期初めのあいさつ、全教職員とお客さんへのあいさつ、学校外での地域の方へのあいさつに課題がある。</p>	3.1	<p>○「4つのあ(あいさつ・あとしまつ・あつまり・あんぜん)」の取り組みを児童会・委員会と教職員が協働して展開する。</p> <p>○保護者や地域の声を活かしながら、引き続き、学校・家庭・地域が連携してあいさつ運動に取り組んでいく。</p> <p>○家庭での基本的な生活習慣、あいさつの励行の啓発。</p>	
	④地域学校協働本部活動とコミュニケーション・学校運営協議会の充実	<p>□地域学校協働本部運営委員会年間3回実施、コミュニティスクール学校運営協議会の本導入と年間2回実施</p> <p>□地域学校協働本部の活動のべ100日以上</p> <p>□地域学校協働本部の活動による安心・安全で多様な教育活動の展開</p>	<p>□地域学校協働本部による支援活動:のべ95日 ボランティア登録者は140名(2月末時点)</p> <p>◎新型コロナの感染分類5類移行に伴い、可能な限りの活動は実施し、教育活動の質の充実を繋げた。秋季大運動会に運営委員の方をご案内したり、必要な各種教育活動にボランティアを依頼するなど、地域の方との交流機会の拡大に努めた。</p> <p>□地域学校協働本部運営委員会年間3回及びコミュニティスクール学校運営協議会を年間2回を計画し、それぞれ効果的な会合が開催され、有益な情報交流・意見交換が実現できた。</p>	3.9	<p>○アフターコロナの学校教育活動の展開にあたり、多彩な取組アイデアの改善等コロナの遺産を活かしつつ、地域の方に来ていただく教育活動の復活や創造、児童や教職員の指導や支援にあたるボランティアの拡充に努めたり、実現可能な範囲で学校・児童の地域貢献も進めるよう年間計画や取組内容等を改善立案する。</p>	
〔4〕 働き方改革(業務改善)	①業務の効率化と働き方改革	<p>□最終退校時刻(消灯・施錠を含む)を4~12月20時、1~3月19時30分:達成率95%</p> <p>□月3日程度の定時退校(18時、遅くても19時)達成率95%</p> <p>□月時間外勤務時間平均60時間未満の教員85%以上</p>	<p>□最終退校時刻・定時退校日・時間外勤務時間月平均60時間以内達成教員の達成率:95.9%・100%・76.2%(2月末時点)</p> <p>◎特別支援教育支援員・校務支援員や各種ボランティア等が教員の業務軽減に繋がっている。また、学期末は下校時刻を早め、放課後の教育活動も可能な限り削減して、事務作業の時間を確保した。</p> <p>◎人材投入型の専科制による各教員の受持ち授業時間の軽減や校務分掌等を含めて複数指導体制を構築することで、教員の勤務負担を軽減し、子どもに向き合う時間の確保や教材研究・各種事務の時間の確保、時間外勤務時間の減少に繋がった。</p> <p>◎研究授業の事前教材研究会(ブロック研修、協働校事業)等が課題となるので、早めの研修計画の提示や個と集団両面による効果的な取組方策が必須。課題である授業研究及び研究指定事業と働き方改革の両立を目指した。</p> <p>▼各学年部会における教材研究・学習指導案検討会議の回数精選と取り組み方改善が必要。</p>	3.0	3.0	<p>○引き続き見通しのある研修計画、提出文書等の定式化と早めの提示等により、計画的・効率的に取り組める体制を整えとると共に、会議の精選と工夫・効率化、終了時刻の設定に努める。</p> <p>○校務支援システムを効果的に活用する。</p> <p>○在籍教員の有効な活用により専科制を推進すると共に、タブレット端末の活用や教材教具の蓄積等で、授業準備等の時間短縮と効率化・均質化を図る。</p> <p>○授業・教育活動支援等に、地域のボランティアを活用する。</p> <p>○是正指導のあった過剰授業時数の問題等も踏まえて、週時程をはじめとする教育課程、校時表や各種教育活動等の見直し改善を適宜行う。</p> <p>○勤務管理のシステムで実態把握をする。管理職講話や面談等を介して意識・取組・体制・環境の改善を図る。</p>
〔5〕 特別支援教育	①特別支援教育と支援体制の充実	<p>□特別支援教育校内支援委員会年間10回(月1回程度)開催</p> <p>□教員の「カリキュラムマネジメント・校内研修アンケート」(1~4段階:4点満点)で特別支援教育の項目:平均3.5点以上</p>	<p>□特別支援教育校内支援委員会9回(2月末現在)、外部専門家を活用した支援体制事業年2回開催。会のみならず日常的に管理職・教職員で情報・意見交換を行うことで支援体制及び支援方法の改善と充実を図ってきた。</p> <p>□特別支援教育に関する教職員肯定的評価:3.4点/4点満点</p> <p>◎特別支援学級担任、特別支援教育支援員、加配教員が協働して効果的な支援体制を構築し、周到に児童の指導や支援にあたってきた。</p> <p>◎指導主事招聘による校内研修、外部専門家活用支援体制事業やSC等、適宜、外部人材・専門指導者を活用できた。</p> <p>▼折々に、発達障害等を含めて特別な支援を要する児童への支援のあり方の困難さに直面することが生じる。</p>	3.1	3.1	<p>○改善は進んできたが、情緒支援学級における学級編制及び個々の特性や能力に応じた適切な教育課程と個別的な指導体制の構築が必要。</p> <p>○通常学級にいる特別な支援を要する児童への支援のあり方と全教職員を活用した効率的・効果的な指導体制づくり。</p> <p>○特別に支援を必要とする児童の実態把握の共有や円滑な支援・指導方策と課題解決のための各種研修の実施。</p>

4段階評価(4 目標を十分に達成、 3 ほぼ目標を達成、 2 やや不十分、 1 改善を要する)

5. 学校関係者評価

*中村小学校コミュニティースクール学校運営協議会委員会の方に評価をいただきました。

◆今年度の学校評価のアンケート・自己評価を見て、概ね肯定的な評価が非常に高く、日頃の先生方の取り組みの成果が着実に現れている。また一方、否定的な評価及び課題の分析等も行い、今後の活動に役立たせている。このようなPDCAサイクルが素晴らしいと感じました。

一年を通して、教育目標の下、4つの「あ」の取り組みに、常に問題意識を持ち、課題の解決に向けて子供達と一緒に取り組んでいる姿勢が見受けられる。これが今の中村小学校の一番の強みだと思いました。

◆学校の取り組みについて資料等を通して説明していただき、自己評価（案）の評定の高い項目が、学力向上、保幼小中の接続、地域との連携に関する内容であることが、よく理解できました。

一方で、評定の低い授業づくり、不登校の対応、あいさつ運動、働き方改革、特別支援教育については、次年度の方策として、具体的に示されていることを実行されて改善結果が出られることを期待しています。

先生方へのアンケートで「これから特に学校で力を入れたいこと」として、1位「道徳教育や人権教育、特別支援教育に力を入れる」、2位「資質・能力ベースの授業、児童の学びを主体とした授業」が60%以上であったことは、評定の低かった項目と連動していると感じました。

◆令和5年度は学力向上等に大きな成果が残った年であったと思います。そういった視点からも、当初は各項目についての高評価がつけられたのではと期待していたのですが、前年と比べ大きく評価点が上がった項目が意外と少ない感じでした。

評価点が上がらない項目や下がった項目もありますが、説明や資料などから推測するに、「できなかった」や「しなかった」という意味より、目標や各取り組みレベルの高さから相対的に評価が下がったという印象です。現在の中小はチームワークのよさと熱心な研究的取組で成果が見えており、評価値の細かい増減はあまり気にする必要もないようです。

〔1〕学力向上について…「①学力向上のための組織的な研修等の取組」が、高評価3.8であることは当然かなと感じます全国学力調査の結果についても、良い成果であったと認識しており、評価値以上の内容充実と自信が見える気がします。「③予習・復習の質と量を高める取り組み」も3.2と目立つ数値ではないものの、昨年より向上しており、家庭との連携・協力について改善が進んでいるものと推測します。今後も保護者と一体になって積極的に取り組まれるよう期待しています。

〔2〕生徒指導について…①いじめの防止のための取り組み、②不登校の総合的な取り組みの評価値が下がっていますが、各家庭の個々の事情差など難しい側面もあることから、問題への対応力が下がったという意味ではないと解釈しています。簡単に無くせるものではないと思いますが、粘り強く取り組みを継続されるようお願いいたします。

〔3〕学校・家庭・地域の連携・協働…①保幼小・小中の円滑な接続の推進、④地域学校協働推進本部活動とコミュニティースクール・学校運営協議会の充実が高点で、学校・家庭・地域の連携がうまく機能していると感じます更なる充実発展に向けて取り組んでください。

◆○学校長のビジョンのもと短期・中期・長期とひとつひとつ課題を解消し、チームとして取り組まれていること、次年度以降もよりよいバトンタッチができるよう期待しています。

○学校は子ども達ひとりひとりが輝いていれば、保護者、地域に安心と信頼をもたらす実践ができており、ありがたいと思います。

○知育をベースに、心の充実、体の成長と、知・徳・体のバランスが学校生活から着実に身につけていることは、主人公の子どもにとってとても有意義な学校生活であることを感じます。

○ひとつの課題を克服すると、別の所に課題が生じる。なかなか全てを満足することは難しいですが、地道に取り組まれることを願います。

○教育は教師本人からすれば教える、子どもはその教えるを守る、その姿が信頼・信用につながる。子ども達が中村小に信頼をおいて安心して生活できていることありがたく思います。

○表面にみえない生活の環境で厳しさを持つ子どもの存在に少しでも寄りそって支援ができるよう関係機関との連携も遠慮なく発信してください。

◆一年を通して、校長先生、教頭先生を中心としたオール中村小で、同じ目標、同じ志を持って児童への教育・指導いただき感謝申し上げます。学校評価に関しましては、良い点悪い点ありますが、しっかりと自己分析できている証であると思います。

各児童、各家庭で個々の問題はありますが、先生方の対応に感謝している家庭が多いと考えます。

働き方改革の点では、PTA活動におきましては、PTAとして先生方の負担を少しでも軽減できる方法・方策を一緒に考えていければと思います。

来年度も引き続き積極的なご指導よろしく申し上げます。